

弘法新聞

100記念号

2021. 1. 1

篠栗四国第八十五番霊場

発行者 郷の原観音 祖聖大寺 住職 加藤丈尚

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗 80-1 Tel 092-947-6368 FAX092-947-6717
ホームページ <http://sosyoudaiji.com/> メールアドレス kanzeon17@yahoo.co.jp

謹 賀 新 年

明けましておめでとうございます。謹んで新春のご祝詞を申し上げます。
旧年中は色々とお力添えを頂きまして有り難うございました。

昨年の7月には熊本県人吉市を襲った豪雨災害。その後の台風9号と続いて
台風10号による九州地方（長崎、壱岐対馬）広範囲に襲った相次ぐ自然災害。
その傷跡が未だ残り、被害の大きさを物語っています。

色んな事が起こります。その中をお祖師様の教えに沿って精進してゆきたく思っております。
被災地の復興と皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



随 感

— コロナ禍や 出口は何処 手を合わせ —

2021年 丑年の幕開け。一体どんな年になるのでしょうか。
昨年は世界的に色々めまぐるしく変化のあった年で、特に1月末に中国武漢から起こった新型
コロナウイルスの世界的な流行で振り回された年でありました。

国内でも色々な事件の発生、生活面でも自然災害（梅雨末期の人吉豪雨。台風9号、10号）
による被害が例年以上に酷く、自然が私達に警告をしているようにも思えました。

話は変わりまして、30年ほど前、当山へ毎月御守りを持ってきてくれる K さんがおられま
した。彼は、戦時中南方の島で連合軍の攻撃を受け逃げる途中、救助船に一足違いで乗り遅れ
取り残されたそうです。後ろには連合軍が控えていて盛んに攻撃してきます。彼はかろうじて
ある民家の床下に身を潜め、あたりの様相を見ていた時、自分が乗るはずだった救助船が敵の
攻撃を受け玉砕された光景を目の当たりにし、命拾いをされたとの事。もう一つは、篠栗から
帰宅中、博多駅前の横断歩道を渡ろうとした瞬間、猛スピードのトラックが彼の目の前を通過
し、あと数センチ身体が前に出たら轢かれていたとの事。これら命拾いをした事はご先祖
様の徳の貯金のお陰であるとの事。このような事はご先祖様の積まれた徳の貯金に感謝し、今
後、自分の寿命のある間、この徳の貯金を使い果たさずしっかり貯めて感謝の心を忘れずに送
りたいと話してありました。

昨年はコロナで始まり、コロナで終わりました。大勢の方がその被害に遭われ、命を奪われ
た方も沢山おられます。誠に恐ろしく、悲しい事です。そのような状況を見てきた大晦日の大
陽は沈んで、新年元旦の太陽が顔を出しました。この元旦の初日の出を拝む方は全国で数えさ
れない程います。しかし、大晦日の沈む夕日に手を合わす方はどれほどおられましようか。沈
む夕日に一年間の無事を感謝し、手を合わせる事が当たり前と思います。その“手”を合わせ
るという行為がとても大切だと思います。神仏だけでなくどのような事や人にもその心で対応し
てゆけば必ず光が射して来るはずです。その心でコロナ禍を乗り越えましょう。

合掌